

花壇づくりのヒント 12か月

7月 アジサイの育て方

梅雨時を代表する花と言えばアジサイです。一般的に私たちが花と呼んでいる部分はガクが変化した「装飾花（そうしょくか）」といわれるもので、本当の花「真花（しんか）」は装飾花の中心に小さく咲いている花です。最近、とても多くのアジサイの品種が園芸店などで販売されており、鮮やかな姿で私たちの目を楽しませてくれます。今回はアジサイの育て方についてのご紹介です。水やりや剪定の基本を押さえて毎年きれいな花を咲かせましょう。

アジサイの主な種類



ガクアジサイ



セイヨウアジサイ



ヤマアジサイ



カシワバアジサイ



セイヨウアジサイ'アナベル'

1. 植え場所・置き場所

アジサイは半日陰でも育つ植物です。強い直射日光や、西日があたると葉が焼けてしまうので注意します。ただ、暗すぎる日陰では花つきや花色が悪くなるので、午前中に日が当たるような場所や明るい日陰に植えたり、鉢を置いたりしましょう。暑さ、寒さに強いので、東海地方では夏も冬も地植えはそのままで、鉢植えも外に置いて管理できます。

2. 水やり

アジサイの学名「ハイドランジア」はギリシア語の「水の器」という意味を持つ言葉に由来し、基本的に水を好む植物です。鉢植えの場合は夏場の水切れなどに注意しましょう。

■鉢植えアジサイ

春から秋にかけては、土の表面が乾いたら、鉢底から水が流れ出るくらいたっぷりと与えます。

夏の暑い時期は土の様子を見て、乾燥しているようであれば気温が下がる夕方にも水やりを行ってください。

■地植えアジサイ

地植え直後のアジサイには水やりが必要ですが、根づいたあとは特に水やりの必要はありません。ただし、雨が数日間降らない日が続くようなときは、土に指を入れてみて、第一関節程度まで乾いていたら水を与えます。

■冬場のアジサイ

夏場ほどの水やりの回数は必要ありませんが、土の様子を見て、乾いていたらたっぷりと水やりをしてください。

3. 剪定

アジサイの花のつき方には「旧枝咲き」と「新枝咲き」の2種類があり、多くの種類が「旧枝咲き」になります。「旧枝咲き」は花後の7月中旬に剪定を行いましょう。「新枝咲き」は、翌年の早春までに剪定します。

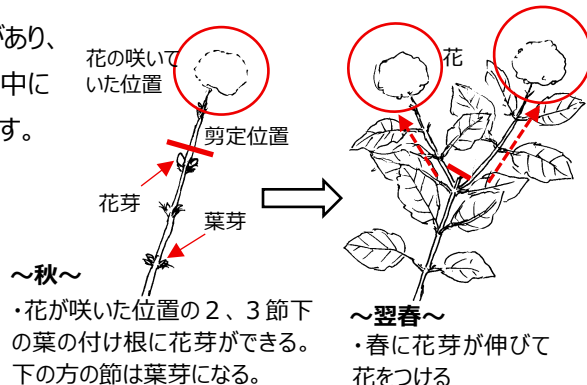
・旧枝咲き…前年に伸びた枝に8月下旬頃花芽が付くタイプ

ガクアジサイ、ホンアジサイ、ヤマアジサイ、
セイヨウアジサイ、カシワバアジサイ

・新枝咲き…その年の春に伸びた枝に花芽が付くタイプ

セイヨウアジサイ'アナベル'、ノリウツギ

【旧枝咲きの花芽のつき方】



【剪定方法】

花が咲かなかった枝は来年の花が咲くので残します。伸びすぎている場合は他の枝とバランスを見て、同様の位置で剪定します。



終わった花の 2、3 節下の脇芽が出ている上で剪定します。

- ・11 月から 3 月の間に枯れた枝などがあれば切って、整理します。
- ・大きくなりすぎた株を小さくしたいときは、地面から 30～50 cm の高さで切る「強剪定」という方法があります。ただしこのやり方は、出来上がった花芽を落としてしまうため、翌年は花が咲かなくなります。

4. 肥料

花後（お礼肥）と、休眠期となる冬場（寒肥）に施します。

花後の肥料は、新芽を育てるための肥料で、花後 1 か月ほどたったら窒素、リン酸、カリウムのバランスが取れた緩効性肥料または固形の油かすなどを施します。

冬に与える肥料は春からの成長に必要な栄養分を補給します。12 月下旬から 2 月中旬までに、花後と同様の肥料を施します。

※肥料を施すと土壌の酸度（pH）が変化します。アジサイの花色が土壌の酸度で変わるの是有名です。例えば赤色系の色を保ちたい場合は、土をアルカリ性に保つように注意します。色ごとのアジサイの肥料も販売されています。

5. 病害虫

アジサイは病気にかかりにくく、害虫もつきにくい植物ですが、風通しが悪い場合などは以下のような病害虫が発生します。枯枝や弱った枝は剪定し、風通し良く管理しましょう。

- ・うどんこ病…「カビ」が原因の病気。梅雨明け乾燥しはじめると発生しやすい。葉の表面が白い粉のように覆われ、生育不良になる。発生した部分の葉を放置すると他の葉にも付着して感染が拡大してしまうため、早めに発病した葉を取り除く。対策として重曹や食酢をスプレーすると良い。
- ・ハダニ…葉の裏側に付着して葉の養分を吸い取る害虫。葉が白くカスリ状になり、ひどくなると葉が黄変して落葉する。葉の表と裏に散水（葉水）をすると良い。

注目品種の紹介



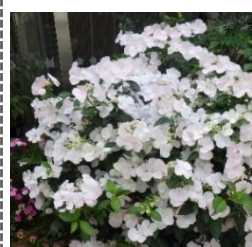
ピンクアナベル

人気のアナベルの赤花品種
白花のアナベルより装飾花の集合体の大きさはやや小型になる



アジサイダンスパーティー

すっきりとがった細弁八重咲きの装飾花が華やかで人気の品種



ラグランジア

アジサイは一般的に枝の先端付近にのみ花をつけるが、この品種は側芽にも花をつけるため、花数が多く、気を使わず剪定が可能

★次回 8 月は『夏の花壇管理』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしくお願いします。